

特定非営利活動法人
まちなか研究所わくわく

2010年度事業報告書

当会の使命と基本理念

【使命】 2004年設立(2005年2月法人認証)

すべての人々が、自ら暮らすまちを
想い、考え、納得してつくっていけるような市民社会の実現

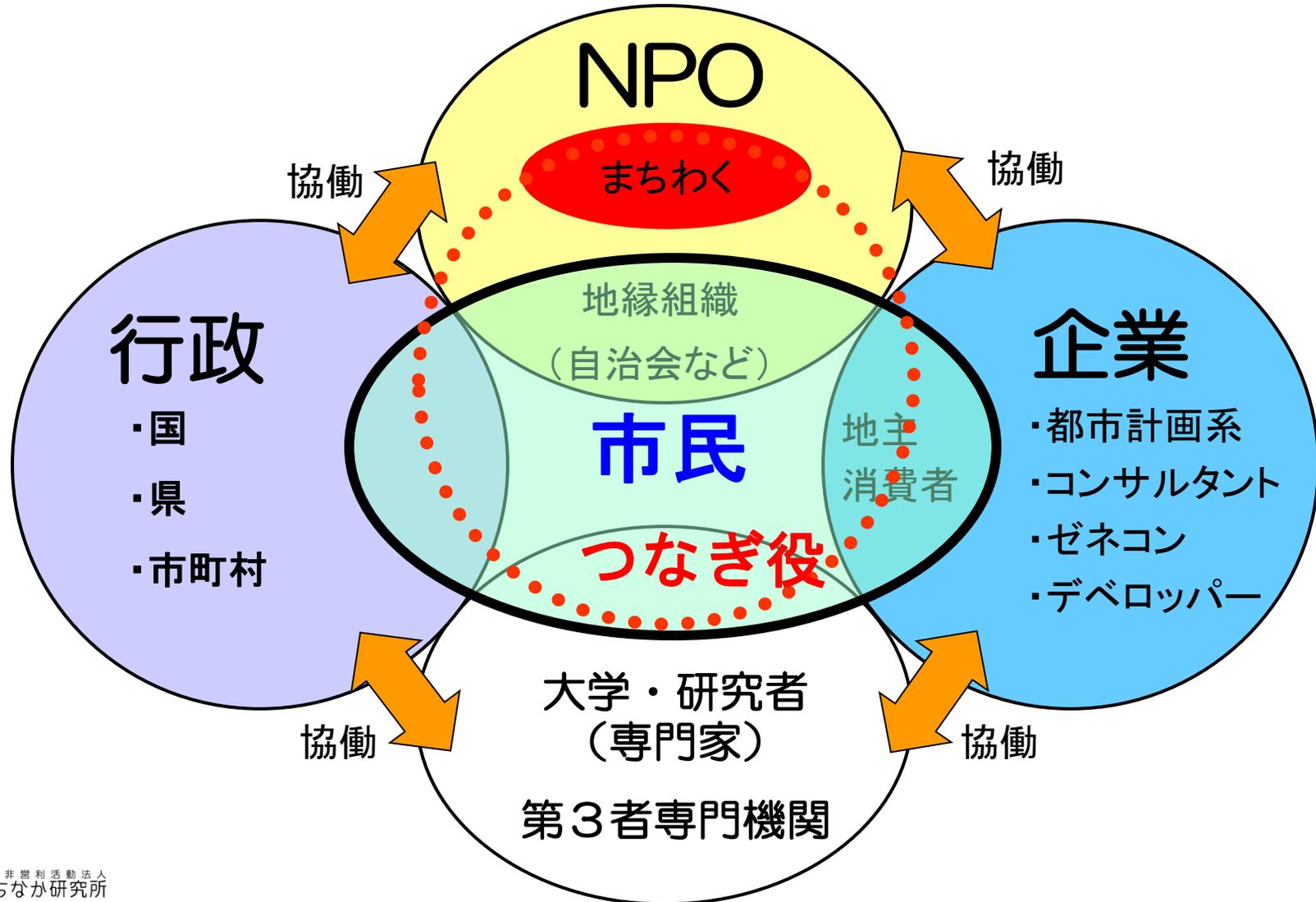
【合言葉】

みんなで「決めて」みんなが「つくる」そんな社会づくりのために、
まちわくは人と組織を「つなぎ」「話し合う」場と社会環境をつ
ります。

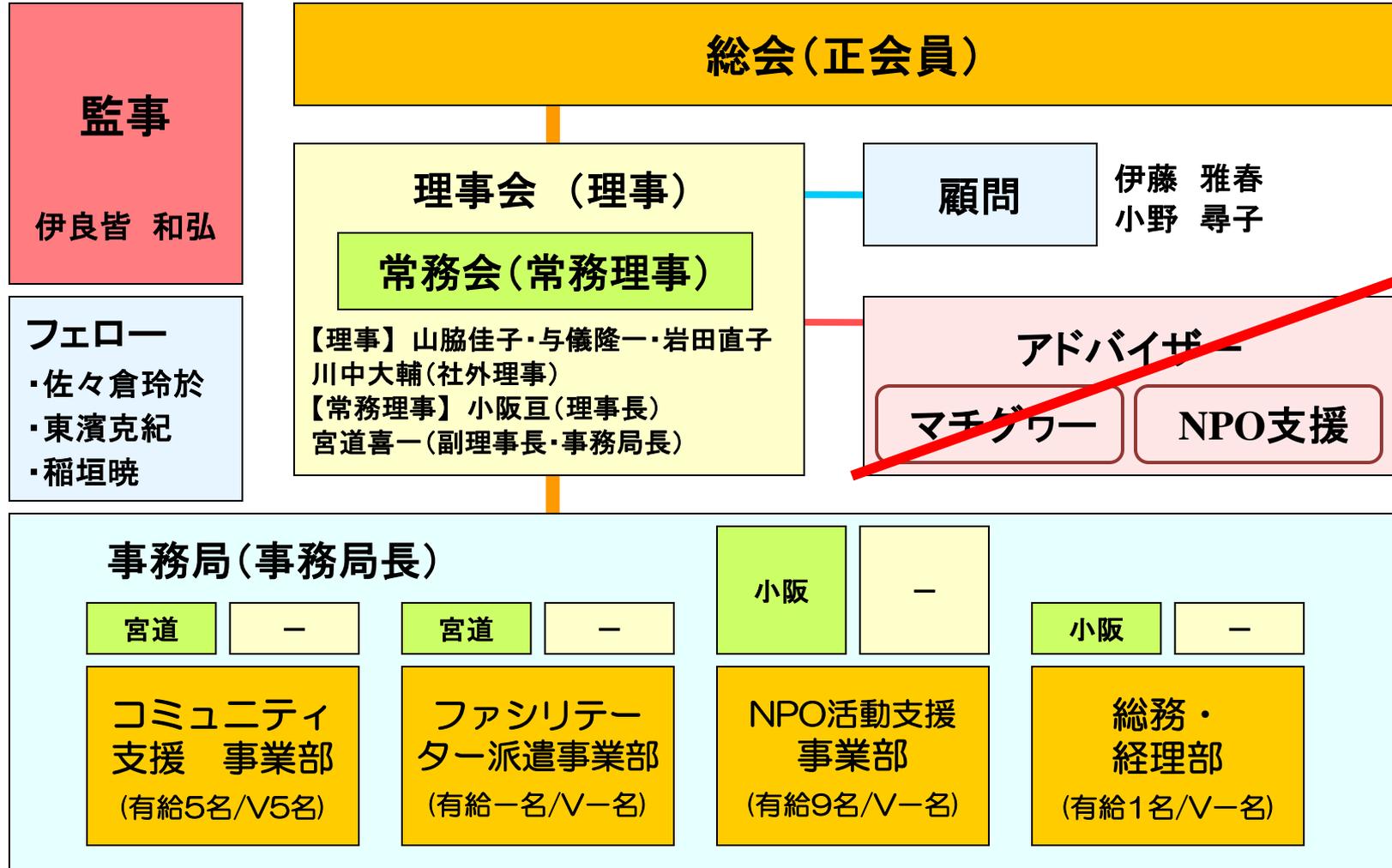
【基本理念】

- みんなで決めてみんながつくるまちづくりの活動と活動サポート
- 市民公益活動を行う団体の活動サポートと市民社会のインフラ整備
- 参加型の場づくりの企画運営と人材育成
- 地域のNPOモデルとなるような継続的な市民活動の組織運営

当会の活動領域



2010年度 体制



2010年度 組織運営

- 会員の現状
 - 正会員10名／準会員0名／賛助会員0名／学生会員0名
- 通常総会の開催
 - 2010年5月15日(土) 19時00分より20時30分まで、にぎわい広場(第二牧志公設市場跡)コミュニティールームにて通常社員総会を開催した。
- 理事会の開催
 - 第1回理事会 2010年5月2日(日) 14時00分より17時00分まで、ユイチホテル南城会議室綾門にて2010年度第1回理事会(決算理事会)を開催した。
- 常務会の開催
 - まちなか研究所わくわくの運営に関して随時、常務会を開催した。(全10回)

2010年度 事務局体制

- 事務局長(宮道喜一)
- コミュニティ支援事業部(担当理事:宮道)
 - 常勤:中嶋栄子、大城民江、堅隆、米谷綾子、具志佳乃
 - 非常勤:城間秋乃(12月~3月)
- ファシリテーター派遣事業部(担当理事:宮道)
- 総務・経理部(担当理事:小阪)
 - 常勤:宮下朋美
- NPO活動支援事業部(担当理事:小阪、宮道)
 - 常勤:小阪亘、宮道喜一、下地美香
 - インターンスタッフ:藤井理子、中村晋一郎(4月~9月)
 - 牧志朝英(4月~9月、3月)
 - 親泊正樹(4月~1月)
 - 仲村一真(9月~2月)
 - 仲宗根葉菜子(10月~2月)
 - 垣花恵太郎、布施達弘(10月~3月)

2010年度 活動ハイライト

- 「地域の力をつなぐまちづくり事業」を受託。マチグワー情報館を開設。
- 那覇のマチグワーオフィシャルサイト「てくてく通信」を開設
- 19人が語るマチグワーの歴史を発行
- 第3回マチグワー楽会開催
- 大学生が中学生の職場体験をコーディネート
- 「那覇市NPO活動支援センター」指定管理最終年度終了
- 宿泊NPO研修「Joint」秋・春開催
- 14の連続プログラム「おきなわNPOカレッジ2010」開催

みんな決めてみんながつくる まちづくりの活動と活動サポート — コミュニティ支援事業部 —

●2010年度目標 『これまで蒔いた種をしっかりと育てる一年に。』

まちつなプロジェクトの成果・機能(マチグワー情報アーカイブ・マチグワー体験プログラム・まちなか情報WEB・マチグワー楽会)をマチグワーに関わる組織に継承していく。地域情報を収集・発信するという取り組みは当会の継続的な取り組みとして実施していき、まちの変化に対応した情報の発信と参加の場づくりを行っていく。また、にぎわい広場の今後のあり方については、積極的に市民の参加の場づくりを行っていく。次のステップに向けた準備を進める。

② 2010年度実施事業

那覇のまちをつなげるまちづくり事業 (那覇市委託事業)

1) マチグワー情報館の運営

【運営期間】2010年7月～3月25日

【開館時間】10時～19時(水曜日・日曜日定休)

2) 那覇のマチグワーオフィシャルサイト「てくてく通信」

まちなかWEBの取り組みから市民参加型の地域情報発信基盤として、那覇まちのたね通信と連携し、「てくてく通信」を開設。

3) 第3回マチグワー楽会の開催

【日時】2011年2月11日(金)12日(土)

【会場】第一牧志公設市場2階、にぎわい広場

【参加者】来場者:250名／発表者:37組織・人

【主催】マチグワー楽会

【共催】那覇市、第一牧志公設市場組合

4) 19人が語るマチグワーの歴史

マチグワーに深く関わる19人に聞き取り調査し、冊子にまとめた。

5) 那覇市中心商店街連合会広報紙の発行

【発行】2010年8月～2011年3月まで毎月1号発行

6) 大学生がつなぐ中学生のマチグワー職場体験プログラム

【沖大生職場体験】8月9日(月)

【古蔵中学校オリエンテーション】8月26日(木)

【職場体験+ふりかえり】9月1日(水)・2日(木)

【その後】事務連絡会議報告、沖大生ふりかえり、マチグワー楽会にて報告

地域情報誌「み～きゆるきゆる」

1) Vol.7(特集:第一牧志公設市場)の制作

【ボランティア募集期間】2010年9月

【制作メンバー】9名

【発行】2011年7月(予定)

2) 販売

【委託】がじゅまるガーデン／とくふく堂／那覇市NPO活動支援センター／桜坂劇場／市内大手書店(琉球プロジェクトを通じて)

③ 事業ふりかえり

①第3回マチグワー楽会の開催

第2回に比較し、コンパクトに開催。那覇市からの緊急雇用事業によって、最も事務局体制が多い回となった。プレイベントでガールズコレクションを開催するなど、新しい取り組みへ挑戦した。

②情報を集積する基盤としての「てくてく通信」を構築

マチグワーに関わる情報をアーカイブ化していくことが課題であったが、集積していくくみを整った。

③那覇市中心商店街連合会に新しい動き

マチグワーの通り会の連合組織である「那覇市中心商店街連合会」が2009年度に再スタートをきったが、今年度は連合会の広報紙を発行することで、理事会を定例開催することができた。マチグワー振興チームが発足するなど、役員以外の関わりと取り組みが生まれつつある。

次年度への課題

①向き合うマチグワーの課題の選択

多様にあるマチグワーの課題に対して、当会として、どこにコミットしていくのかを見極めることが必要。そのためのリサーチが必要。

②情報発信の3本の軸を育てる

情報発信に関して、「み～きゆるきゆる」「マチグワー楽会」「てくてく通信」という3本の軸を育てていく。

③職場体験を軸とした自主事業開発

子どもたちの職場体験を軸としたプログラム開発と寄付も含めた収益モデルの構築。

④マチグワーに見える変化の波

- ・にぎわい広場条例の改定
- ・にぎわい広場の指定管理導入
- ・第一牧志公設市場の改修・建替え検討委員会
- ・中心市街地活性化基本計画に代わるマチグワー将来ビジョンの策定
- ・公設市場衣料部2階の活用
- ・那覇市中心商店街連合会の事務局強化

④ 資源（人・資金など）

●人事マネジメント

- ・有給職員(8月～3月:5人)
- ・インターンシップ(10月～3月:1人)

●資金マネジメント

行政委託に依存しており、委託契約後からしか事業をスタートできない状況にある。これまでも助成金や委託事業を主な資金源としてきたため、年度の変わり目に事業がストップしてしまう状況にある。

今後の取り組み方針と自主財源の造成を考える必要がある。

●資金内訳

重点分野雇用創出事業

地域情報誌「み～きゆるきゆる」

その他

収入	支出	差額
12,512,000	11,232,907	1,279,093
121,178	98,927	22,251
201,250	225,830	-24,580
合計	12,834,428	11,557,664
		1,276,764

参加型の場づくりの 企画運営と人材育成

－ ファシリテーター

派遣事業部 －

●2010年度目標

主催講座の開催やファシリ派遣事業インターンの受け入れ等によって、ファシリテーションのスキル・ノウハウ・経験を持つ人材を団体内部と外部に増やしていく。また、行政内のニーズにも応えられるプログラムを実施していく。

② 2010年度実施事業

研修・講座事業

- 1) 助成金書き方講座 講師(依頼:うるま市社会福祉協議会)
- 2) 講義「行政実務論1」(依頼:沖縄国際大学佐藤学)
- 3) 「ちゅくいむじゅくい」講師(依頼:文化の杜共同企業体)
- 4) 沖縄型次世代リーダー発掘・育成プログラム人財Qubic 講座講師(依頼:NPO法人沖縄人財クラスタ研究会)
- 5) 女性のための起業(NPO法人)養成講座(依頼:浦添市ハーモニーセンター)
- 6) エリアコーディネーター講座(依頼:NPO法人調査隊おきなわ)
- 7) NPOと行政の協働の取り組みについて(依頼:沖縄自治研究会)
- 8) パーソナルサポートサービス事業新人研修(依頼:沖縄県労働者福祉基金)
- 9) 沖縄県協働推進員研修(依頼:沖縄県県民生活課)
- 10) 参加者が本気で参加できる会議(依頼:沖縄県社会福祉協議会)

委員派遣

- 1) 沖縄県ボランティア・市民活動支援センター運営委員(依頼:沖縄県社会福祉協議会)
- 2) 那覇市社会福祉協議会評議員(依頼:那覇市社会福祉協議会)
- 3) 那覇市ボランティアセンター運営委員会(依頼:那覇市社会福祉協議会)
- 4) 災害救援ボランティア推進会議委員(依頼:那覇市社会福祉協議会)
- 5) NPO助成金選考委員(依頼:沖縄県労働金庫)
- 6) おきなわ環境交流集会審査員(依頼:NPO法人ホールアース研究所)
- 7) 沖縄の古民家保全・再生・活用事業(依頼:国建)

ファシリテーター派遣事業

- 1) NPO法人なはまちづくりネット社内研修
- 2) 現地訪問・学習会(依頼:高崎経済大学地域政策学部櫻井ゼミ)
- 3) 久茂地小学校を存続させる会ミーティング
- 4) 国際協力セミナー(依頼:沖縄リサイクル運動市民の会)
- 5) 「NPOいっぽ」団体相談
- 6) 学生子育てワークショップ(依頼:那覇市子育て応援課)

③ 事業ふりかえり

① スタッフも講師として派遣

常務理事2名での対応から、スタッフも講師を務めるようになり、依頼に理事だけでない、対応体制の一步を踏み出した。

② 年間38件の依頼。過去最大

委員派遣数は変わらなかったが、講座講師とファシリテーター派遣について、件数が伸びた。昨年度(2009年度)25件であった派遣数が今年度は38件と過去最大の件数となった。特に中間支援系NPOや地域組織からの依頼も増えている。

② ファシリテーター養成の主催講座開催できず

事業目標としてたファシリテーター養成のための主催講座を開催できなかった。

次年度への課題

① ファシリテーションスキルを持った人材の育成

まちわくの骨格といえるファシリテーションのスキル・ノウハウ・経験を積み重ね、沖縄の社会に発信していくためには、そこを担う人を増やしていかなければならない。

そのためには、以下について検討する必要がある。

- 1) まちわく現スタッフのスキル・経験値アップ
- 2) ファシリ派遣事業でのインターン受け入れ
- 3) 主催講座による外部ファシリテーター養成

② 収益面での戦略が課題

様々な分野から依頼を受けるようになってはいるが、収益性の観点からはまだ難しい。今後、依頼数を増やしていくのか、仕事単価を上げていくのか、収益面での戦略をもった事業展開が必要である。

③ 主催の取り組み

当会として、取り組みたいテーマを組み込んだ参加の場やファシリテーター派遣のメッセージを発信していく必要がある。

④ 資源（人・資金など）

●人事マネジメント

- ・有給職員(0.1人×2人)
- ・インターンシップ(一)

常務理事2名での対応から、スタッフも講師を務めるようになり、依頼に理事だけでない、対応体制の一步を踏み出した。定期的に入ってくる講座等もあることから、ファシリテーターの養成とインターンの受け入れ等の検討が必要である。

●資金マネジメント

NPO、社会福祉協議会、自治会、行政からの依頼による資金収入となっている。委員依頼については、社会福祉協議会からのものが多い。

講師手当として設定した目標額に達せず、赤字となってしまった。

●資金内訳

講座・講師・委員派遣

	収入	支出	差額
	633,335	711,928	-78,593
合計	633,335	711,928	-78,593

市民公益活動を行う団体の 「活動サポート」と 「市民社会のインフラ整備」 — NPO活動支援事業部 —

●目標(那覇市NPO活動支援センター指定管理業務)

2008年度:10年間の事業総括及びまとめ

2009年度:「市民フォーラム」の開催等による総括からの次の10年を考える

2010年度:これからの10年に向けての取り組み

② 2010年度実施事業

那覇市NPO活動支援センター指定管理業務(3/3年目)

「参加と対話のプラットフォーム」

- 1) 来館者数は、9,640人で平均約26.9人/日
- 2) NPOオフィス「共同空間」 4団体
- 3) 相談件数:206件(団体:203件、個別:3件)
- 4) 人材育成長期(半年・一年)インターン8名
短期インターン3名(沖縄国際大学、沖縄大学、社会人)

「課題解決のためのパートナーシップ」

- 1) NPOマネジメント講座の実施 3回
- 2) アドバイザー派遣 4団体
- 3) おきなわNPOカレッジ2010(14講座)
- 4) NPO塾 10回、参加人数 64名
- 5) 生活困窮者に関する勉強会
- 6) NPO事業サポート
- 7) おきなわ市民活動支援会議(1回/月)

「NPO情報市場」

- 1) 広報誌まちからコラボの発行 2回
- 2) 市民活動団体PV作成事業 年12回取材(youtubeアップ)
- 3) NPOヒトワク紹介事業(FMなはとの協働事業) 49回
- 4) おきなわ市民活動NPO便利帳データウェブ公開

「NPOゆいまーるファンド」

- 1) 那覇市NPO活動支援基金助成事業 助成8団体

「企業活力」

- 1) 一般財団法人「みらいファンド沖縄」設立
- 2) 広報誌まちからコラボ(NPO×企業)
開南小学校×那覇青果物卸商業協同

NPO/SB合同宿泊研修会ジョイント

- 【1回目】2010年9月19日(日)～20日(祝)、参加者:22人(8団体)
テーマ:社会を変える仕組みをつくる
- 【2回目】2011年3月19日(土)～20日(日)、参加者:26人(8団体)
テーマ:社会を変える仕組みをつくる「理事と理事会を生かす」
- ・講師:川北秀人氏(IIHOE代表)
 - ・宿泊研修参加団体で月例ミーティングをもち、NPOで研修内容をつくっていった

おきなわNPOカレッジ2010

NPO同士お互いが学びあえる連続14講座の開催

主催:おきなわNPOカレッジ実行委員会

日時:2010年11月14日(日)～11月27日(土)

参加人数:延べ148名

参加費:1講座500円(広報講座のみ2,000円)

場 所:那覇市NPO活動支援センター会議室等

「“新しい公共”を育てるための緊急アンケート」の実施

沖縄県内のNPO等が活動基盤を強化するために何が必要か基礎調査として行い、また平成23年度から始まる国の『新しい公共支援事業』の実施主体となる沖縄県へ参考資料として提示し、NPOのニーズにあった事業が展開されるよう活用する。

- 1) 主 催:「おきなわ市民活動支援会議」参加5団体
- 2) 対 象:沖縄県内を基盤に活動する、市民公益活動団体
- 3) 実施期間:2011年2月5日(土)～2月18日(金)
- 4) アンケート送付数:631
- 5) 回収率 :16% (返信数109団体)

③ 事業ふりかえり

①第3期の指定管理者へ応募するも落選

那覇市NPO活動支援センターの指定管理者業務を2010年度で3年目を迎え、終えた。次の5年の募集に応募したが、落ちた。利用者であるNPOのニーズを聞き取りきれなかったことと、プレゼン力に課題を残した。

②ジョイント研修の開催

受講者であるNPOとともに講座をつり、年2回の宿泊研修であるジョイント研修を実施し、2011年度も引き続き、開催していく。

③おきなわNPOカレッジの開催

11月におきなわNPOカレッジとして、14日連続プログラムを展開した。NPOに関わる人が参加者となり、ときに講師となる学び合えるプログラムとなった。実行委員会は解散したが、次年度も継続していくことを確認した。

次年度への課題

①マチグワーに拠点を移す

ぶんかテンプス館から壺屋に拠点を移し、引き続き、NPO活動支援事業を継続する。

②バックサポートオフィスを展開

NPO等の会計など事務局サポートを展開する。10団体のサポートを目標とする。

③わくわく空間の開設

事務所にて、活動する人や組織が交流し、相談でき、作業もできるわくわく空間を展開する。月額の利用料を設定する。

④県域の分野を越えたNPOネットワークの構築

東日本大震災などの動きや国の新しい公共の動きに合わせ、分野を越えた県域のNPOネットワークづくりに取り組む。

④ 資源（人・資金など）

●人事マネジメント

- ・有給職員（3人＋事務スタッフ0.5人）
- ・インターンシップ（前期4人＋後期4人）

●資金マネジメント

人件費の増加に伴い、管理費のねん出が難しくなった。

●予算

那覇市NPO活動支援センター指定管理業務

収入

17,003,885

支出

16,934,804

差額

69,081

合計

17,003,885

16,934,804

69,081

地域のNPOモデルとなるような 継続的な 市民活動の組織運営

— 総務部 —

●2010年度目標

- ・総務マニュアルの作成

② 取り組みと次年度への課題

総務マニュアルの作成

・会計、請求業務、各種保険など業務内容の多様化に対応するため、総務マニュアルを作成した。

健康診断の実施

・職員の健康を保つために健康診断を行った。

事務局業務のサポート

・まちわく各事業運営のサポートを行った。

NPOバックオフィスサポートの準備

・1000万円規模のNPOに対して、会計事務等のサポートを行うサービスの準備を行った。

事務所移転

・那覇市NPO活動支援センターの指定管理が終わることを見据え、事務所の移転を行った。

■次年度への課題

①現金の管理

現金管理のために、金庫の鍵の管理と入出金の手続きの体制を整備する。

②収支の管理

管理費の確保や次年度への資金留保など、定期的な収支の管理体制を整備する。

③自立した総務体制

総務部でも収益を得られるサービスをつくり出す。